

## 本書のねらい

本書は、国語学習の基礎・基本を着実に身につけ、応用力の土台を養うことを目標としています。

段階的な構成になっていますので、基礎から高校入試レベルまでスムーズに学習することができます。

### ◆ 本書の構成 ◆

準備編・読解編・言語編・総合編の四編で構成されています。読解編は三章に分けており、各分野を繰り返し学習することができます。

### 読解編

二十九単元で構成されています。第二章以降では、各分野の学習に入る前に、それまでの学習内容を振り返って確認することができます。「○○の確認」という単元を設けています。

### 確認問題

要点のまとめ・学習目標で、当該単元で「これから何をするか」「何ができるようにするか」を示しています。まず文章を読み、文章内の漢字・語句・文法問題を解くことによって、語彙力の底上げを図ります。次に、要点のまとめに対応する基本的な問題で学習内容の確認を行います。最後に、文章をひととおり読んで理解できているかを測る問題を設けています。

「○○を考える」という小見出しの問題は、単に漢字・語句を答えるだけでなく、自ら漢字・語句について考えていけるように工夫しています。

### 基本問題

確認問題と同じ文章を読み、学習内容の定着を図ります。要点<sup>ポイント</sup>には、確認問題での要点のまとめを補足する内容や基本問題を解くうえで参考になる事柄を記載しています。

### 演習問題

確認問題・基本問題よりやや難しい文章を読みます。基本的な問題や、やや手ごたえのある問題、記号問題や記述問題など、多様な問題に取り組むことで、実力アップを図ります。最後のコラムでは、単元内でどのような学習をしたか、今後どのように役立てていけるかを示しています。

①：読解編の各設問のうち、やや難しい設問に①をつけています。

### 言語編

読解編の単元数と同じ単元数です。上・中段では「漢字・語句」「文法」を、下段では「漢字の読み書き」を学習します。

### 漢字・語句／文法

学習のポイントを簡潔にまとめた要点のまとめの後に問題が続きます。まとめに対応する基本的な問題で構成されています。

### 漢字の読み書き

読み五問＋書き五問の計十問で構成しています。書き五問は小学校で学習する漢字を出題しています。

### 総合編

テスト形式の総合問題です。これまでの学習でどれくらいの実力がついたかを確認することができます。

### 思考力・判断力・表現力

単元21・29・特集は、作文や意見文の記述、資料の読み取りなどの問題で構成されています。これらの問題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を養い、発展的な問題への対応力を高めることができます。

# 目次

準備編			単元名	ページ	学習日	確認
■	■	■	問題の答え方	4	/	
			説明的文章の読み方	6	/	
			文学的文章の読み方	8	/	

読解編														単元名	ページ	学習日	確認
第2章							第1章										
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
文学的文章(4) (1)～(3)の確認	説明的文章(7) 構成	説明的文章(6) 段落関係	説明的文章(5) 要点・段落	説明的文章(4) (1)～(3)の確認	詩歌 詩・短歌の表現と鑑賞	古典(2) 古文 古文 古語・係り結び	古典(1) 古文 歴史的仮名遣い	文学的文章(3) 筆者の思い(随筆)	文学的文章(2) 心情	文学的文章(1) 出来事・場面・展開	説明的文章(3) 理由・言い換え	説明的文章(2) 接続語	説明的文章(1) 指示語	単元名	ページ	学習日	確認
88	82	76	70	64	58	52	46	40	34	28	22	16	10		/	/	/

言語編														単元名	ページ	学習日	確認
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
ことわざ(2)	ことわざ(1)	慣用句(2)	慣用句(1)	類義語・対義語	連体詞・接続詞・感動詞	名詞・副詞	動詞・形容詞・形容動詞	単語の分類	文節・単語	三字熟語・四字熟語の構成	二字熟語の構成	同訓異字・同音異義語	部首・画数・筆順	単元名	ページ	学習日	確認
205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192		/	/	/





記述問題の答え方 (2)

言葉の働きといえば、書いたり話したりすることによって、コミュニケーションをとるといことが、すぐに思い浮かぶ。朝起きて「おはよう」と挨拶することから始まり、学校へ行って友達や先生と話す、学校からのお知らせを読むなど、私たちの日常は言葉によるやり取りであふれている。しかし、言葉には、もう一つの重要な働きがある。それは、頭の中で物事を考えるときの手段となることだ。たとえば部活動で、最近部員の士気が上がらないとしよう。コンクールに出場しようか、朝練の回数を増やそうかなど、皆のやる気を引き出す方法を頭の中であれこれ考える。このときもちろん、私たちは一生懸命言葉を駆使しているはずだ。

**問題** — 線「言葉の働き」とは、どのようなことですか。四十字以内で書きなさい。


**解答** 例 コミュニケーションをとったり、頭の中で物事を考えるときの手段となったりすること。(40字)

**注意点①** 文章中の言葉を最大限に利用する

・ 文章中から、中心となる言葉(キーワード)を取り出し、それをつなぎ合わせる。

・ 同じ意味のことを別の言葉で表現している場合があるので注意する。  
 ・ 答えの要素は一つとは限らない。複数部分を合わせて答える場合もあるので、注意する。

上の文章の場合、

例 言葉の働きといえば、……ということ ↑ 一つめの要素

言葉には、もう一つの重要な働きがある。

それは、……こと ↑ 二つめの要素

**注意点②** 言葉を変化させてまとめる

・ 問われていることに対応して答えられるように、語順を入れ替えたり文末を整えたりして言葉を変化させ、わかりやすい文にまとめる。つじつまの合わない文にならないように注意する。

上の文章の場合、

例 コミュニケーションをとったり、頭の中で物事を

考えるときの手段となったりすること。

↑ 二つの要素をまとめるので「……たり……たり」を使う  
 文末を整える

**注意点③** 具体例や比喩表現は、一般化してまとめる

・ 一般的、抽象的な事柄をわかりやすく説明するために使われている具体例や比喩表現は、そのままでは答えとして適切でないため、一般化してまとめる必要がある。

**注意点④** 指示語は指示内容を明らかにして書く

・ 文章中の言葉を使ってまとめるときは、文章中にある指示語の指示内容を明らかにして書くようにする。

準備編

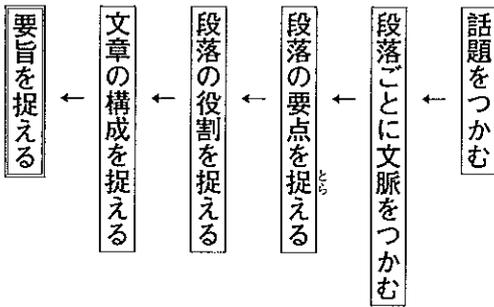
説明的文章の読み方

**1** 説明的文章とは？ ある事柄について筋道を立ててわかりやすく述べた文章。大きく分けて説明文と論説文の二種類がある。

●説明文…ある事柄について、事実にもとづいてわかりやすく説明した文章。記録文や報告文なども、説明文に含まれる。

●論説文…ある事柄についての筆者の意見や主張を、根拠などを示し、筋道を立てて述べた文章。

**2** 説明的文章の読解の流れ



文章の初めに出てくる言葉や、繰り返される言葉、「」で強調された言葉など、キーワードに注意して、何について書かれた文章かをつかむ。

細部を正確に読み取りながら、文章の構成を把握する。

説明的文章では、具体例や比喩が用いられる場合が多い。それらが何を説明するために示されたものなのかをまず捉える。そのうえで、筆者のどのような考察や意見が述べられているかを読み取る。

ある問題に対し、筆者がどのような答えを出しているか、どのような提案をしているかなどを捉える。

**3** 説明的文章の読解

(1) 文脈をつかむ

① 指示語の指す内容を捉える。

- 指示語の含まれる一文から、指示語の指す内容に見当をつける。
- 指示語の指す内容は、指示語よりも前にあることが多い。
- 見当をつけた言葉を指示語の部分に当てはめて、意味が通じるかどうか確かめる。

② 接続語の働きを捉える。

接続語の働きに注意して、接続語の前後の関係を捉える。

接続語の働きと主な接続語	
順接	前の事柄が、後の事柄の原因・理由となる。 例) したがって、だから
逆接	前の事柄とくいちがう事柄を、後述べる。 例) しかし、けれども、だが、ところが
並立・累加	前の事柄に並べたり、付け加えたりする。 例) また、そして、さらに、しかも
対比・選択	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。 例) あるいは、または、それとも、もしくは
説明・補足	前の事柄をまとめたり、補ったりする。 例) つまり、なぜなら、例えば、ただし
転換	前の事柄から話題を変えて、後の事柄を述べる。 例) さて、ところで、では、いっぽう

③ 理由を表す部分や言い換えられている部分を捉える。

次のような言葉に着目する。

理由を表す表現

- 「……から」「……ので」「……ため」
- 「順接・説明の接続語（「だから」「なぜなら」など）」

言い換えを表す表現

- 「言い換えると」「いわば」「……といえる」
- 「説明の接続語（「つまり」「すなわち」「要するに」など）」

(2) 段落の要点を捉える

その段落で筆者が最も述べたい事柄を要点という。

① キーワードを捉える。

・ 繰り返し出てくる言葉や、対比、強調されている言葉に着目する。

② 段落の初めや終わりに注意して、中心文を見つける。

・ 段落の内容が端的に述べられている文を中心文という。この中心文に着目して、段落の要点を捉える。

③ 中心になる部分と、それ以外の部分（具体例や比喩、根拠、理由など）を読み分ける。

〈中心になる部分〉

・ それまでの内容がまとめられている部分。

↓ 「つまり」「要するに」などの接続語に着目。

・ 筆者の意見が述べられている部分。

↓ 「……と考える。」「……べきだ。」などの文末表現に着目。

(3) 段落の役割を捉える

① 段落の初めの接続語に着目する。

② 文章全体の中で、その段落がもつ役割を考える。

【段落の役割】

- ・ 話題・問題を提起する。
- ・ 前の内容の説明・理由・具体例を挙げる。
- ・ 前の内容と対立する事柄を述べる。
- ・ 前に述べた内容を整理したり要約したりする。
- ・ 新しい話題を述べる。
- ・ 文章全体を締めくくる（意見をまとめる）。

(4) 文章の構成を捉える

① 意味段落を捉える。

内容的につながりのある段落をまとめ、文章全体をいくつかの意味段落に分ける。

② 文章の構成の基本型をもとに、文章の構成を考える。

文章の構成の基本型		
頭括型 <small>とうかく</small>	尾括型	双括型 <small>そうかく</small>
最初に結論を述べ、その後で具体例や根拠など、結論を支える事柄を述べる。	初めに具体例や根拠などを述べ、最後に結論を述べる。	最初に結論を述べ、具体例や根拠などを述べて、最後に再び結論を述べる。

※尾括型は、序論（問題提起）—本論—結論（まとめ）という、三段構成をとることが多い。

(5) 要旨を捉える

要旨とは、筆者が文章を通して述べようとしていることのものである。

① 文章の初めや終わりに着目して、結論を述べている段落を捉える。

② 筆者の意見・主張を捉える。

- ・ 序論で問題を提起している場合は、それに対する答えを押しさえる。
- ・ 二つの事柄が対比されている場合は、筆者がどちらを重視しているかを捉える。

・ 筆者の主張が明示されている文に着目する。

例 「しかし」「つまり」などの接続語の後。

例 「……と考える。」「……べきだ。」などで終わる文。

準備編

文学的文章の読み方

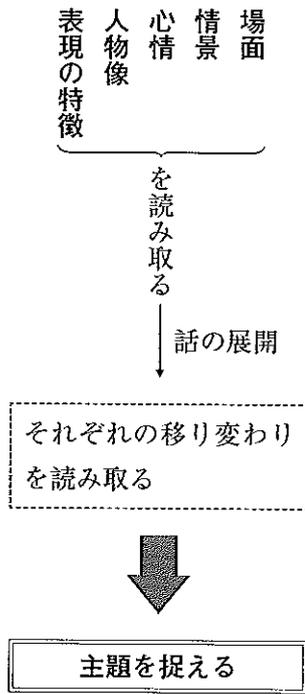
**1** 文学的文章とは？ あるテーマにもとづいて、想像上の出来事や筆者の体験などを描いた文章（ここでは、そのうち小説と随筆を扱う）。

●小説：出来事・事件や登場人物の生き方の中に、作者の考えを表そうとした文章。物語・フィクションという言い方をすることもある。作者は、想像によって人物像やその人物の生きる世界を作り出し、その中に自分の考えを盛りこむ。

●随筆：筆者が見聞きしたことや体験したことなどについて、感じたことを思いつくままに述べた文章。随筆の話題は、自然環境、社会情勢、人生の問題、文化・芸能など、多方面にわたる。

**2** 小説の読解

小説では、場面ごとに、情景や登場人物の心情、人物像などを押さえ、話の展開に沿ってその移り変わりを読み取り、最終的に主題を捉えることを目標とする。



(1) 場面を捉える

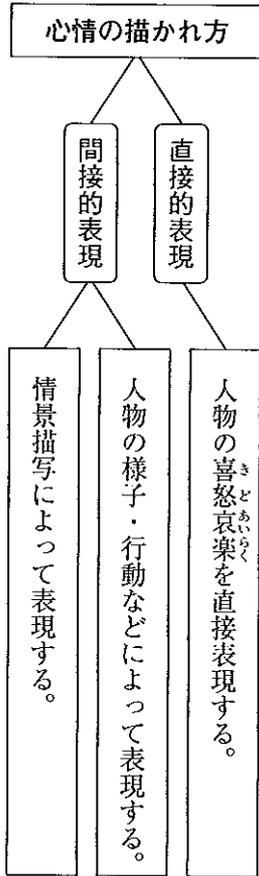
次の要素について読み取り、場面を把握する。

【場面を構成する要素】	〈着眼点〉
いつ（時）	時代、季節、時刻を表す言葉
どこで（場所）	場所を表す言葉
誰が（登場人物）	人物と、人物どうしの関係
どうした（出来事）	出来事と、そのきっかけ（原因）、結果

※地の文での説明だけではなく、人物の会話にも注目する。

(2) 情景・心情を捉える

情景とは、登場人物や作者の心を通して描かれる風景や場面の様子のこと。情景には、登場人物の心情が反映されることが多い。



小説の読解で最も重要なのは、人物の心情の変化を読み取ることである。心情の変化には、場面の变化（時間の変化・場所の変化・人物の登場・退場・新たな出来事）など、必ず何かきっかけ（原因）がある。話の展開に沿って、人物の心情がどのようなきっかけで、どのように変化したのかを読み取る。

(3) 人物像を捉える

人物像を捉えることで、その人物の行動の理由や心情もつかむことができる。次の着眼点から、人物像を捉える。

- ・人物の設定：立場・境遇・性格・考え方などを押さえる。
- ・他者から見た人物像：他者が、その人物についてどのように捉えているのかに注目する。

(4) 表現の特徴を捉える

工夫された表現の特徴を捉え、味わうことで、文章の理解が深まる。

【文章の特徴】

- ・文末（常体か敬体か、現在形か過去形か）
- ・一文の長さ（一文が長いか短い）
- ・視点（一人称か三人称か）
- ・言葉（漢語が多いか、片仮名が多いかなど）

【表現技法】

- ・比喩
- ・体言止め
- ・反復
- ・対句 など

(5) 主題を捉える

主題とは、作者が文章を通して表現しようとしていることである。

【主題を読み取るための主な要素】

- ・作品の舞台・背景や、状況・人間関係などを捉える。
- ・話のやま場（クライマックス）と、やま場における登場人物の行動・心情とその変化を捉える。

登場人物（主人公）の心情、考え方、生き方に着目し、登場人物が何に心を揺り動かされてどう変わったのかを押さえ、作者が文章を通して表現したかったこと（作者の心情・思想）は何かを読み取る。

3 随筆の読解

(1) 題材を捉える

随筆とは、筆者の体験や見聞をもとにして、筆者が感じたことや思ったことをまとめたものである。まず、題材が何であるかを捉える。題材は、大きく二つに分けられる。

- ・実際に体験したこと（直接的）：日常生活・旅行・行事など
- ・見聞によるもの（間接的）：……本・インターネット上の話題・他者の話など

(2) 表現の特徴を捉える

随筆では、筆者が自分の思いを効果的に伝えるために、表現に独特の工夫を凝らしている。心情表現をはじめ、一文の長さ、符号の使用、擬声語・擬態語、比喩・対句など、表現の特徴を読み取る。

(3) 主題を捉える

まず、筆者が体験した、あるいは見聞きした事実を語っている部分と、それにまつわる感想をまとめている部分を読み分ける。

次に、感想をまとめている部分に着目し、筆者の心の動きを読み取る。

筆者が「何について」「どう思った（感じた）か」「なぜそう思ったか」を押さえながら、筆者の心の動きを追っていき、筆者独自のものの見方考え方を捉えていく。それが、文章で筆者が最も訴えたかったこと、すなわち主題に密接に結びついている。

事実 筆者が実際に体験したこと・見聞きしたこと

← それにまつわる

感想 筆者独自の考え・一般的な考え



主題

〈着眼点〉

繰り返し返されている言葉・対比されている内容  
強調されている文末表現・筆者の価値判断が表れた表現

# 1 説明的文章(1) 指示語

・指示語とは何か、どのような役割がある言葉なのかわかる。  
・指示内容の捉え方や、指示内容を確認する手順がわかる。  
・指示内容を正確に抜き出したり、書き表したりできる。

●指示語 指示語とは？ 同じ言葉の繰り返し返しを避け、文章を読みやすくするために使う言葉。 例これ・そこ・あちら・この○○・そんな○○

指示内容を捉える→確認する

## 要点のまとめ

① 指示語を含む一文の内容を確かめる。

例 テーブルの上に桃がある。

指示語 それは私の大好物だ。

指示語を含む一文

指示語が指す内容がどのようなものかは、指示語を含む一文で確認できます。「私」の「大好物」とは「何か？」と考えると、「それ」が指すものを、あらかじめ想像することができます。

② 指示語の指す内容は、指示語より前にあることが多いので、まずは指示語の前に注目して、指示内容を捉える。

指示内容

例 テーブルの上に桃がある。それは私の大好物だ。

③ 指示語の部分に指示内容を当てはめてみて、文意が通ることを確かめる。

例 テーブルの上に桃がある。桃は私の大好物だ。

「それ」のところに「桃」を当てはめても、文章の意味は自然です。つまり、「それ」は「桃」を指していると確認できます。この手順で指示内容が正しいか判断できます。

## 確認問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ミミズは意外と器用で、地表を移動する時の身ぶりも大きく分けて三パターンあります。

最もよく見る動きは、体を伸び縮みさせて進む方法です。太くなるところを足がかりにして、前のほうが細くなり前へ進む。今度は前のほうが太くなり後方はそれに引っ張られる、というように伸びたり縮んだりして前進みます。この方法で後退もできるのです。

しかし、体の伸縮だけでは土の上をすべってしまい、進まないのではなにかと思うでしょう。実はミミズは剛毛という毛をもっています。名前のとおり硬い毛を出したり引っ引つ込めたりできるしくみで、地面に引っかかりを作っては、前に進んでいるのです。

試しに紙の上で移動させると、カサカサと音がします。これが剛毛の引っかかりの音なのです。



10

## 漢字・語句・文法の確認

(1) 漢字の読み書き — 線①～⑤の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

- ① ( ) み ( )
- ② ( ) ① ( )
- ③ ( ) ② ( )
- ④ ( ) れる ( )

(2) 類義語を考える。線A「方法」と似た意味を表す熟語となるように、□に当てはまる漢字一字を書きなさい。

□ 段

① 同音異義語を考える。線B「後退」と同じ読み方をする熟語を、二つ以上書きなさい。



二つ目はヘビと同じようにクネクネと蛇行して移動します。草むらや枯れ葉の上はこの方法ですばやく動きます。曲げた体を左右に打ち当てながら、地面を押し進むように進みます。この時剛毛は使っていない(引っ込めている)ようです。

三つ目は、歩き方というより走り方といったほうが適切かもしれません。つかまえられそうになった時に、ピンピンと飛び跳ねて逃げて行きます。はげしい動きなので、こちらもびっくりします。目をこらすと釣り上げた魚のように、右に左に体をそらして跳ねているように見えます。実は体をそらしているだけではなく、首を回すように体全体を回転させています。

この動作によって伸縮や蛇行よりすばやく移動していくことができるのです。ミミズは体の縦方向の筋肉(円環状にならんでいるものとは別に、前後に縦に走っている筋肉)があり、これを順番に伸び縮みさせることで、体をしならせているようです。

移動のためにはないのですが、とてもすばやいミミズの動きがあります。それは巢孔から体半分くらいを出している状態から、引っ込む時です。

皆さんもケイケンがあると思いますが、巢孔から体を出しているミミズをつかまえようとすると、あつという間に引っ込んでしまつて、なかなかつかまえることができなかったことはありませんか。

私はこのスピードを測れないものかと考えました。

ひらめいたのはビデオに撮って時間を割り出す方法です。東京都の新宿四谷で、夜のミミズを撮影しました。ここは春になると桜の花見でにぎわう公園の中です。引っ込む距離がわかるように、メジャーをそつとミミズに平行に置いてから、ミミズを刺激し巢孔に引っ込む様子を撮影しました。それをビデオで計測するのです。

その結果、最も速かったミミズは、距離3cmを巢孔に隠れるのに0・13秒でした。秒速にすると22・5cmです。

〔柴田康平「ミミズの謎」より 誠文堂新光社刊〕

35

30

25

20

(4) 部首 〰〰〰線C「押」の部首名を平仮名で書きなさい。

(5) 同訓異字 〰〰〰線D「測れない」とありますが、「測」と同じ訓読みで、次の文の□に当てはまる漢字を、後から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 図
- イ 量
- ウ 諮
- エ 計

(6) 段落 この文章は、いくつの段落でできていますか。算用数字で答えなさい。

文章内容の確認

(7) 指示語 〰〰〰線「これ」は、何を指していますか。文章中から八字で抜き出さなさい。

(8) 文章内容の確認 この文章は何について述べたものですか。次の□に当てはまる言葉を、文章中から二字で抜き出さなさい。

・ミミズの

について。





## 演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 鳥という生き物が地上に生まれる前から、鳥に進化する前の段階から、その祖先に羽毛やつばさがあったのだとしたら、それはなんのためにあったのか？ 研究者も恐竜ファンも、みんな悩んでしまします。その答えにつながるヒントをくれたのは、子孫である鳥たちでした。

② 鳥の祖先となった恐竜グループは一定の体温をもった恒温動物だったと考えられています。また、彼らのなかまには、卵を放置するのではなく、抱いてあたためていたものがいたこともわかっています。

③ つまり、羽毛は、寒いときには体温が逃げないようにして、暑いときには熱をブロックするなどして、自身の体温調節のために使われていた可能性があります。また、卵を抱いてあたためる場合、つばさがあつて羽毛があつた方が、効率的により多くの卵をあたためることができるようになります。卵がかえる確率も上がるはずですが、こんなふうにより自身の羽毛を使ったのではないかと考えられているのです。

④ もう一つ考えられるのが求愛、結婚を前提とした異性へのアピールです。鳥のオスは、さえずったり踊ったりしながら、メスに自分をアピールして、つばさの相手に選んでもらおうとします。その際、羽毛を広げてその美しさを見せつける種もいます。

⑤ インコの場合、羽毛を使った求婚ディスプレイはあまり見られません。クジャクなどの例を見ると、そんなふうにより自身の羽毛を使った恐竜もいたのでは、と思えてきます。いや、一億数千万年にわたるその時代の中には、そんな恐竜もきつといたのでは？

⑥ 広げた羽毛に巨大な目玉のような模様があれば、捕食者などを威嚇するの役に立ったかもしれません。自分のつばさの羽毛を相手に見せて、捕食者がいつしゅんひるんだすきに猛ダッシュで逃げ去る、つばさのある弱い恐竜。そんな

姿も、あつたかもしれません。

⑦ 恐竜の羽毛にも、現在の鳥たちももっているメラニンという色素があつたことが化石から突き止められています。恐竜は灰色、黒、茶、赤の色をつくりだせる二種類のメラニンをもっていました。メラニンは人間でも皮膚や毛髪などにもっている色素です。ほかに、まだ確認されていませんが、カロチン系など、別の色素もあつたかもしれません。また、羽毛に特定波長の光を吸収したり、別の波長の光を反射するような構造があつたかもしれません。

⑧ カロチンはオカメインコやセキセイインコの羽毛の黄色い部分をつくっている色素です。また、セキセイインコの青は色素ではなく、羽毛表面の特殊な構造によつて青い色だけが反射されて青く見せているものです。

⑨ もしも、現代の鳥と同じようなこうした色素や構造がつばさの羽毛にあれば、恐竜もとてもカラフルだった可能性があります。そして、そんな羽毛をもつていたとしたら、求婚や威嚇など、さまざまなアピールに活用できたのではないかと考えられるのです。

⑩ 最近、以前に比べて恐竜の図鑑がともカラフルになったと思いませんか？ これは、恐竜たちもさまざまな色をしていたはず、という認識が世の中に広まった結果です。

⑪ 鳥たちの多くは人間には見えない紫外線もふくめ、人間に見えているあらゆる色が見えています。その視覚の能力も恐竜から受け継いだものです。つまり、恐竜たちもフルカラーで世界を見ていたということですね。

⑫ 鳥たちしかり、蝶類しかり、魚たちしかり、色がよく見える生き物は、自身もカラフルになる傾向があります。そうしたことから、恐竜がカラフルな羽毛をまもっていたとしても、なんの不思議もないのです。

(注) ブロックするは遮る。 アピールは相手に訴えかけること。 求婚ディスプレイは動物のオスがメスに対してつがいになることを求める行動。 威嚇するはおどす。 波長は光は波としての性質をもっており、波の長さによつて人間の目に感じる色が異なる。 しかりはそれとおり。



# 2

## 説明的文章(2)

### 接続語

- ・接続語とは何か、どのような種類と働きがあるかがわかる。
- ・接続語の前後がどのような関係なのかを捉えることができる。
- ・筆者がどのような意図で逆接の接続語を使っているかが理解できる。

#### 接続語の捉え方

① 接続語の前後に着目し、前と後の内容がどのような関係にあるかを押さえる。

(後の内容が、前の内容に付け加えるものになっている)

例 日本の春は美しい。しかも、桜の時は格別に美しい。

並立・累加

② 逆接の接続語を用いて、筆者の述べたい内容が強調される場合もある。

(後の内容が、前から予想されることと食い違っている)

例 日本の四季は美しい。しかし、現代の日本では季節感が失われつつある。

逆接

「(四季は)美しい」から予想されることは食い違つ(季節感が)失われつつある。が後に続いています。筆者は、「しかし」という接続語を用いて、「季節感が失われつつある」ことは「(後)では無い(=残念なことである)」と伝えています。

#### 要点のまとめ

種類	働き	語例
順接	前の事柄の順当な結果を後で示す。	だから・それで・すると
逆接	前の事柄と対立する内容を後で示す。	しかし・けれども・だが
並立	前で述べた事柄と並べたり、付け加えたりする。	また・および・ならびに
累加	前後の事柄を比較したり、一方を選択したりする。	あるいは・それとも
対比	前の事柄をまとめたり、補ったりする。	つまり・なぜなら・ただし
説明	前の事柄から話題を変える。	さて・ところで・では
補足		
転換		

### 確認問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

言葉は常に変化していますから、<sup>①</sup>概に正しい、正しくないと言えない②です。だわりの使用をはじめ、「とりつくほ、まもない」や「舌づつみを打つ」などといった言い間違いは、「耳ざわり」に感じられます。そうした言葉の誤用や言い回しの間違いなどについて考えていきたいと思います。

さて、言葉のカタチがよく似ている「おざなり」と「なぞざり」<sup>A</sup>。この二つの言葉を正確に使い分けている人はどれほどいるでしょうか。「おろ

#### 漢字・語句・文法の確認

(1) 漢字の読み書き——線①～④の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )

(2) 主語 ～～線A「この二つの言葉を……いるでしょうか。」から、主語を一文節で抜き出しなさい。



そかにする」という意味で、「対策をおぎなりにする」「おぎなりな健康管理」などと「おぎなり」が使われることがあります。しかし、これは誤用です。「おぎなり」を辞書で引くと、「お座なり」という表記が出ていると思います。つまり「おぎなり」はお座敷に關係した言葉で、「その場の間に合わせ」といった意味で江戸時代から使われていました。一方の「なおざり」の語源は明確ではありませんが、歴史的仮名遣いでは「なほざり」となります。「なほ(直)ではないこと」を表しており、平安時代にすでに使われていました。

整理すると、「おぎなり」は「(いい加減ではあつても)一応は物事を行うこと」であるのに対し、「なおざり」は「軽視して放っておく」という意味です。「おぎなりなやり方」という言い方はしますが、「なおざりなやり方」とは言えませんね。ですから、「おろそかにする」という意味で使うのであれば、「対策をなおざりにする」「なおざりな健康管理」となるのです。この「おぎなり」と「なおざり」は、言葉のカタチや響きが似ていることから、混同している人が多いのでしょう。しかし、言葉の成り立ちも意味もまったく別の語です。「おぎなり」や「なおざり」に限らず、言葉を使う際は、いい加減になんとなくではなく、辞書を引くなどして正確を期すことを心掛けてください。

なお、冒頭に挙げた「とりつくヒマもない」でもなんとなく通じそうですが、正確には「とりつく島もない」「舌づつみ」も「舌で鼓を打つ」わけですから「舌づつみ」が正解です。「耳ざわり」に関しては「耳触りのいい音楽」といった表記を見かけることもあります。これは誤りです。本来は「耳障り」と書き、不快に感じることに對してのみ使われる言葉なのです。

(注) 一概に「みなひっくりかえす」も「とりつく島もない」頼れるところがない。相手の態度が冷たくて、話を進めるきっかけがつかめない。舌づつみ。おいしい物を味わったときに鳴らす舌の音。

① 圏数 ~~~線B「健」、C「誤」の総画数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

② 圏数 ~~~線D「源」を使った「語源」以外の熟語を、二つ以上書きなさい。

③ 対義語を考える。~~~線E「軽視」と反対の意味を表す熟語となるように、に当てはまる漢字一字を書きなさい。

④ 語句の意味。~~~線F「期す」のここでの意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある一つのところに落ち着く。  
 イ そうなるかもしれないと期待する。  
 ウ 必ずそうなるようにと決心する。  
 エ 忘れないようにしっかりと記憶する。

文章内容の確認

⑤ 接続語——線「しかし」は、どのような種類の接続語ですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 逆接    イ 対比・選択    ウ 順接    エ 並立・累加

⑥ 文章内容の確認 この文章は何について述べたものですか。次の文のに当てはまる言葉を、文章中から漢字二字で抜き出しなさい。

・言葉の  や言い回しの間違いについて。

# 基本問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

言葉は常に変化していますから、一概に正しい、正しくないとは断定することはできません。ただ、言葉を専門にしているわたしには、「こだわり」の使い方ははじめ、「とりつくひまもない」や「舌づつみを打つ」などといった言い間違いは、「耳ざわり」に感じられます。そうした言葉の誤用や言い回しの間違いなどについて考えていきたいと思います。

① さて、言葉のカタチがよく似ている「おざなり」と「なおざり」<sup>②</sup>。この二つの言葉を正確に使い分けている人はどれほどいるでしょうか。「おろそかにする」という意味で、「対策をおざなりにする」「おざりな健康管理」などと「おざなり」が使われることがあります。□、これは誤用です。

③ 「おざなり」を辞書で引くと、「お座なり」という表記が出ています。つまり「おざなり」はお座敷ざしよに關係した言葉で、「その場の間に合わせ」といった意味で江戸時代から使われていました。一方の「なおざり」の語源は明確ではありませんが、歴史的仮名遣いでは「なほざり」となります。「なほ（直）ではないこと」を表しており、平安時代にすでに使われていました。

整理すると、「おざなり」は「(いい加減ではあっても)一応は物事を行うこと」であるのに対し、「なおざり」は「軽視して放っておく」という意味です。「おざりなやり方」という言い方はしますが、「なおざりなやり方」とは言えませんね。ですから、「おろそかにする」という意味で使うのであれば、「対策をなおざりにする」「なおざりな健康管理」となるのです。

この「おざなり」と「なおざり」は、言葉のカタチや響きが似ていることから、混同している人が多いでしょう。④しかし、言葉の成り立ちも意



(1) 接続語——線①「さて」という接続語の働きとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 前の段落の内容とは対立する内容を示している。
- イ 前の段落の内容を受けて新たな話題へと転換てんかんしている。
- ウ 前の段落の内容から当然予想される結果を示している。
- エ 前の段落で述べた内容をまとめて説明を補っている。

(2) 指示語——線②「この二つの言葉」とは、何を指していますか。「……という言葉。」に続くように、文章中から十三字で抜き出さなさい。

□	□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---

という言葉。

(3) 接続語 □ に当てはまる接続語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア さらに
- イ だから
- ウ なぜなら
- エ しかし

(4) 接続語——線③「つまり」と同じ働きをする接続語を次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア すなわち
- イ すると
- ウ けれども
- エ ところで
- オ 要するに

⑤ 接続語——線④「しかし」とありますが、ここで逆接の接続語を使うことによって、どのようなことが強調されていますか。次の文の □ に当てはまる言葉を、文章中から十五字で抜き出さなさい。

「おざなり」と「なおざり」という言葉は、□であること。





## 演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- ① 人と人との出会いには、物理的なものと化学的なものがあると、私は考えています。
- ② 物理的な出会いとは、たまたまクラスやサークルがいつしよになったり、人から紹介されたりした出会いです。ビジネスマンでいえば、あちこちの勉強会やパーティーに顔を出し、名刺交換や握手をし、とおりにっぺんの話題をかゝすだけの関係。いわば「仲良しクラブ」を形成するような出会いです。
- ③  、私の知り合いのドイツ人に、大臣を務めていた政治家がいます。彼は大臣の時に何度も日本を訪れました。その間に、彼を迎える日本側の大臣は二回変わり、合計三人の大臣に会ったそうですが、そのうちの誰一人として、政治家としての信念や日本国の展望について語らなかつたということでした。
- ④ 「オフレコの場でも何も話そうとしなかつた」と、彼は言っていました。会話の内容が記録されず、報道もされないオフレコの時こそ、自分の信念や本心を語れる大事な時間なのに、<sup>①</sup>これでは真のコミュニケーションは生まれませんし、個人としての友人関係にも発展しません。まさに物理的な出会いの見本のようなものです。
- ⑤ 一方、化学的な出会いとは、お互いの心のありようにかかわる出会いです。
- ⑥ 「自分の世界」をしっかりと持ち、その中で成長していこうという意欲を持つている人は、無意識のうちに同じような人を探し求めて、ある種の信号を発しています。そういう人は、お互いにすれ違うだけでその信号をキャッチして共振する。そして、この共振現象をお互いが重要なものとして心の中に刻み込み、これを核として友人関係が生じていきます。
- ⑦ これが化学的な出会いです。このような出会いは、決して偶然ではなく必然的な出会いだと、私は自分の経験から確信しています。
- ⑧ 私は、人間同士の出会いは理屈では説明のしようのない不思議な化学反応

15

10

を起こすと考え、これを「ヒューマン・ケミストリー」と名付けました。

⑨ 相性が合う、信条が合う。あるいは、考え方は違っても、互いに相手の信条を尊重できる。これらの要素の総合体を、最初に出会った瞬間に感じ取り、互いにかもしだす雰囲気<sup>④</sup>を心地よく感じられれば、大切な友人関係を築くことができるでしょう。

⑩ また、こうした出会いは、当事者それぞれの世界において、新しい生き方、新しい価値、そして新しい自己の発見につながると、私は信じています。それはちよūd、異質なものの結合から新しい特性を化合・生成する化学反応のようなものです。

⑪ ヒューマン・ケミストリーによって得た友人は、まさしく「心の友」。あなたにとって最大の財産になります。「仲良しクラブ」的な人間関係からは、単なる遊び友達ならいくらでもできるでしょうが、ヒューマン・ケミストリーに基づく本当の「心の友」は、そう簡単にはできません。一生のうちに一〇人できればすごいことだと思ふので、そういう「心の友」こそ大事にしていくください。

(注)

サークルはスポーツや文化活動などを楽しむための集まり。

オフレコは取材、インタビューなどの公の場で語られる内容に対して、それを記録したり、公表したりしないという条件をつけること。

共振はある物体が振動するとき、その振動のエネルギーが他の物体に伝わって、同じように振動すること。共鳴。

① 今北純一「自分力を高める」より

25

35

(1) 接続語  に当てはまる接続語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば
- イ なぜなら
- ウ ところが
- エ もしくは

(2) 指示語 —— 線①「これ」とは、どのようなことを指していますか。次の文の  に当てはまる言葉を、文章中から二十六字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

- ・三人の大臣が  こと。


(3) 接続語 —— 線②「一方」の働きについて述べた次の文章の  ①・②に当てはまる言葉を、文章中からそれぞれ四字で抜き出しなさい。

- ・筆者は、ここまでの文章中で具体例を挙げて  ③ 出会いについて説明している。そして「一方」を用いることで、ここまでに説明してきた内容と対立する内容である  ④ 出会いの説明が続くことを示している。


(4) 指示語 —— 線③「これを核として友人関係が生じていきます」とありますが、「これ」とは何を指していますか。次の文の  に当てはまる言葉を十五字以内で書きなさい。

- ・「自分の世界」を持っていて、 人が、同じような人と出会ったときに共振すること。


(5) 接続語 —— 線④「あるいは」、⑤「そして」と同じ種類の接続語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば
- イ さらに
- ウ だが
- エ または
- オ ただし

 ④  ⑤

(6) 内容理解 —— 線「ヒューマン・ケミストリー」とありますが、化学反応のどのようなところが、人間同士の出会いと似ていると筆者は考えていますか。文章中の言葉を使って、二十五字以内で書きなさい。


(7) 文章の把握 —— この文章で述べられていることとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 化学的な出会いは、偶然によってもたらされる。
- イ 仲良しクラブは、化学的な出会いによって形成される。
- ウ 心の友は、ヒューマン・ケミストリーによって得られる。
- エ 物理的な出会いは、新しい自己の発見につながる。

**段落冒頭の接続語の働きを考える——段落の関係がわかる**

☆接続語には、段落と段落の関係を示すものがあります。接続語が段落の冒頭に用いられている場合、その接続語の種類や働きを考えてみましょう。そうすることで、前の段落とその段落がどのような関係にあり、どうつながっているのかがわかります。